けいはんな音楽コンクール

第4回 弦楽器部門 本選総評

今年も皆さまが一生懸命、音楽に取り組まれている姿を見て、気が引き締まる思いでした。
音楽的にも、技術的にもレベルが高く、他の審査員の先生方と喜んでおりました。
また、過去に参加してくださっていた方々が一段と成長なさっていたことに感動いたしました。
毎年恒例ですが、みなさまに共通した「課題」や音楽に取り組む上での（私個人の）基本的な考え方を〈音楽〉〈技術〉〈その他〉の三つに分けて書かせていただきます。

【音楽】

・音楽の変化（コントラスト）について

「隣り合うものは異なる」というのが基本的な考え方です。
音量の大小は有用な要素ですが、それだけでなく、例えば発音の鋭さと柔らかさ、音の形（減衰の仕方）、弓のスピードや使う場所など、様々なグラデーションを試してみてください。
各モチーフ、各フレーズの性格をよく考え、感じ、ふさわしい音色を選び、実現しましょう。
ヒントは和声です。分かりやすいのは「明るい」と「暗い」。そして「不協和音（緊張）」と「協和音（緩和）」。

・「発展」について

同じことを繰り返す（ゼクエンツを含む）ときに「クレッシェンド」は伝わるのですが、その途中にストーリーがあるように。
ただ音量が大きくなっていくのではなくて、一つ一つが「発展」している意識があると、さらに説得力のある演奏になります。

・方向性（ディレクション）について

一本調子に聞こえてしまわないように注意しましょう。
まず小さなフレーズの頂点（目的地）を意識し、そこに向かってそのフレーズを組み立てます。
それができたら、大きなブロックの頂点を考え、そして曲全体の頂点を考えます。
常に頂点を明確に意識して弾くといいでしょう。

・句読点について
　前述の「頂点」と少し関係があるのですが、頂点の先に少し落ち着けるところがあるはずです。
　私は音楽の「句読点」と呼んでいます。
　方向性をもって、前に向かうのはいいのですが、どこで落ち着くのかという事も考えましょう。
　お客さんも、音楽自体も息を付けるように。（管楽器や歌を参考に）

【技術】
・音の形について
　音の形について研究しましょう。特に「テー　テー」と平坦にならないように。
　ボウイングがヒントです。

・ボウイングについて
　弓のコントラストについて研究しましょう。スピード/重さ/毛の量/弾く場所（先or元・駒よりor指板より）
　典型的なのは、低音は重くて遅い弓/高音は軽くて速い弓を基本に。（次項でも言及いたします。）
　また、音の最初は重さを使った遅い弓→響きを増やすために軽くて速い弓へ（音の形を形成する助けにもなります。）
　他にも、華やかな部分は速い弓を使い、歌う部分は速度を落としてねっとり動かすと表現のコントラストが付きやすいです。

実際の動かし方として、右手を「柔らかく」「柔軟に」というのは非常に難しいことです。
腕が直線的な軌道を描くと、弓は円運動に近い形になり、直角が崩れやすくなり、音も直線的になってしまいます。
腕の付け根から（厳密には、肩甲骨、鎖骨の付け根から）指先まで、全ての関節が役割を持っていて、
関節がコンパス（隣の関節までの骨が半径）だとして、多数のコンパスの動きを組み合わせて、直線を描くイメージです。（いかに難しいかがわかると思います。）
「今はこの関節がメインで動く」という事はあっても、常に他の関節が補助的に働かなければなりません。
そしてそのバランスは常に変化するはずです。
弓を少ししか使わない時でも、「一部」ではなく「全体」を使う感覚を持ちましょう。

・楽器の特性について。特に低音と高音のボウイングについて
　特にヴァイオリンという楽器は、低い音が鳴りにくい。

というよりは、弦楽器の特性として、低音は重さを多めに、高音はスピードを多めにするとバランスがいいと思います。低音を弾くときは重さをしっかりかけて、音をよく鳴らしてあげてください。

・フォームについて
ヴァイオリンは、楽器が下がると腕、弓の重さが音に乗りません。
弦の駒から先の部分が地面と水平になっているか確認しましょう。そして、弓と腕と手と肘がなるべくそこと同じ平面上にあるように。

・音程について
まず耳を鍛えましょう。最初はピアノの音からで構いません。徐々に「共鳴」を感じられるようになりましょう。
自分にとって「正解の音程」を知りましょう。
左手の指の並べ方を確認しましょう。特に同じポジションで他の弦との位置関係を覚えましょう。
ポジションチェンジは過程を確認しましょう。
音を鳴らして「違う」と感じたら、すぐに修正できるようになりましょう。（押さえる指に力が入っているとうまくいきません。）

・ヴィブラートについて
種類を豊富にしましょう。
具体的には「幅」と「速度」のグラデーション。
そして、音の中で、どのようにかけるか？
例えば、音の終わり、音の形が減衰している時にヴィブラートを使って響きを増幅させるなど。

・弓の配分について
実現したい音にふさわしい場所を見つけましょう。
そして適切な場所に自然に来られるよう、計算して弓を使いましょう。

・細かい音をクリアに。「難所」の弾き方について。
多くの皆さまに共通していた課題がこちらだと思います。
「ここが難しい」ということがお客さんに伝わってしまわないようにしましょう。そういう箇所こそ思い切って弾くことが大事です。特に右手、弓の使い方（重さ/速さ）が発音の助けになることが多くあります。
左手の発音（押さえ方/離し方）はもちろんですが、、、。
このように、左手に原因があると思っていても、右手が解決に繋がることはよくあります。（逆もまたしかり）

【それ以外】
・客席が気になってしまうことについて。
特に低学年までの方数名に見受けられました。年齢を考えると仕方がないかもしれませんが、演奏に集中できるといいですね。
私は客席が気にならないよう、正面を向いて立ち、楽器を舞台上手に向けて構え、ネックの先に視線がいくように気をつけています。
チェロは視線にどうしてもお客さんが入ってしまうのですが、それでも、左手や弓と弦が交差する場所に集中するなど、解決法はあると思います。

・お客さんに伝わりやすい演奏について
もっと大げさに表現する必要があると思いました。特に大きなホールでは伝わりにくくなってしまいます。
また、安定した技術は、お客さんの集中を音楽から離さない力があります。

・作品を勉強する時は
同じ作曲家の別の作品を勉強し、その作曲家のイメージを膨らませましょう。
特に別の楽器の作品、歌の作品、オペラやバレエの作品から様々な印象を受けることでしょう。

・「美しい音」について
「巨匠」といえるかなりご年配のロシア人の先生のレッスンを1度だけ受けた際「演奏家がヴァイオリンを弾いていられる時間はそんなに長くないの。『美しい音』だけ考えていたらその人生が終わるくらいよ」と言われました。
様々なことに気を付けながら、いつもどこかで「美しい音」について考えることができるといいですね。

様々なことを書きましたが、上記の事は私個人の意見でしかないという事をご承知おきください。
私自身、自分に言い聞かせるような気持ちで書いております。

これからも音楽を楽しみ、好きでいてくださいね。
皆さまの益々の成長を心から応援しております。
一緒に頑張りましょう。

弦楽器部門 審査員長 堀江恵太

けいはんな 音楽コンクール

第4回 ピアノ部門 本選総評

本選ご出場の皆様、おめでとうございます。
皆さん非常に良く練習しておられ、それぞれに音楽への熱意が伝わる表情豊かな演奏が出来ていました。

まず、皆さんの演奏から、とても腕の使い方が柔軟で、無理ない自然な打鍵を習得されている人が増えてきているのを感じました。このことは、音色のコントロールに繋がる音楽的に重要な技術です。
次に、選曲が幅広く多岐にわたっていて、邦人作品も数多く取り上げられていました。早い時期から様々な傾向の楽曲に接するのは大変有意義なことと思います。

ピアノの曲は、歴史的に、楽器の発達や時代の社会情勢等に伴って各時代により様式が変化し発展してきました。更に、各時代の中での各作曲家の特徴がありますので、個々の作品の本来の魅力を引き出すためには、譜面上の技術的なこと以外に奏法上の色々な課題が生じます。
そのため、選曲に当っては、それぞれの人の状態や年齢に応じて無理なく最大限長所が発揮できるような配慮がポイントの一つになると考えます。

今回の演奏経験を生かして、これからも皆さんが一層成長してゆかれますよう、心から願っております。

ピアノ部門 (幼児の部・小学校1･2年生の部・小学校3･4年生の部)
審査員長 宮本弘子

けいはんな音楽コンクール

第4回 ピアノ部門 本選総評

第4回けいはんな音楽コンクールに、私が審査を担当いたしました小学校5･6年生と中学生と高校生のピアノ部門本選の総評を書かせていただきます。

総じてどの年代の方も、大変落ち着いたステージマナーで、椅子に座ってから演奏に入るまでの呼吸の整え方が美しい方が多いと感心いたしました。実は、このあたりのタイミングが最終的に演奏を成功に持っていく大切な鍵だと思いますので、磨き上げてきた演奏に一番相応しいテンポを、今一度そこでしっかりとイメージされると良いでしょう。大部分の方はそれができておられましたが、時にはそのテンポ感が後に少し崩れかけると、小さな傷につながる場合も、まれにあったようにも思います。

けれども、本コンクールを立ち上げた創設者の方々の若い音楽家たちへの温かい想いが、すでに出演者をはじめ、熱心にご指導いただいている先生方に十分届いているような幸せな気分に包まれながら、聞かせていただいておりました。

選曲もまた大切なことの一つですが、それもとてもよく考え抜かれていたと感じました。

そこで一つお願いしたいことがあります。大切に選ばれた曲には、その曲が生まれるまでに作曲家が人知れず苦労したことや、それまでを支える長い歴史があることに目を向けていただきたいのです。バックグラウンドを含めた作品全体を大切に想い、その作品がご自分の中で鳴り響く時、作品と演奏は大切な兄弟姉妹のような二つの独立したものとなることでしょう。

出演者の皆様と、本コンクールがますます発展されますことを強く確信いたしました、幸せな審査体験でした。本当にありがとうございました。

ピアノ部門 (小学校5･6年生の部・中学生の部・高校生の部)
審査員長 清水 淳彦

けいはんな音楽コンクール

第4回 童謡 / 声楽部門 本選総評

出場者のみなさん、先日は本当にお疲れ様でした。 まずは、これほど多くの方がこのコンクールに挑戦してくださったことを、心から嬉しく思っています。 みなさんの一生懸命な歌声に、私たち審査員もたくさんの感動とエネルギーをいただいた、幸せな一日でした。今後のさらなるステップアップのために、今回気付いた「もっと素敵に歌うためのポイント」を、大きく2つに分けてお伝えします。

1.歌うための「体づくり」のポイント

歌を歌うとき、私たちの「体そのもの」が楽器になります。

- 正しい姿勢と呼吸： 体が前のめりになったり、拍子を取りすぎて軸がぶれたりしていませんか？深いブレス（息）を吸い、フレーズの終わりまでしっかり支えて歌いきることを意識しましょう。
- 喉のリラックス： 特に小学生の中・高学年のみなさんに多く見られましたが、高い音のときに喉に力が入りすぎてはいませんか？喉はリラックスさせたまま、たっぷり吸った息とお腹の支えを使って、高い音へアプローチしてみましょう。
- 豊かな響き（共鳴）： 幼児のみなさんは「笑顔」を意識するだけで、お口の中が広がり、響きがぐんと豊かになります。また、下半身でしっかり体を支えることで、体全体を楽器のように響かせることができるようになります。

2.「表現」を深めるためのポイント

童謡において、もっとも大切なのは「言葉を伝えること」です。

- 言葉の抑揚を大切に： 日本語には特有の高低（アクセント）があります。メロディーに乗せる前に、まずは歌詞を「朗読」する練習をしていますか？今回高い評価を受けた方は、まるで語りかけるように言葉を届けてくれていました。
- 美しい発音（「ん」や鼻濁音）： 今回、多くの審査員が注目したのが「ん」の発音です。「ん」にはいくつかの種類があり、これを丁寧に歌い分けるだけで日本語はぐっと美しくなります。また、鼻濁音（がぎぐげご）への意識も、綺麗な日本語には欠かせません。
- 歌の表情（ニュアンス）： 嬉しい、楽しい、悲しい、寂しい……。言葉の意味に合わせて「声の色」を変えてみましょう。一つのフレーズを滑らかに（レガートに）歌ったり、繰り返しのフレーズで強弱に変化をつけたりすることで、歌の世界観はより深く伝わります。

以上が、みなさんの演奏を聴かせていただき感じたことです。 今回、納得のいく歌が歌えた方も、少し悔しい思いをした方も、ぜひこれらのポイントをヒントに、これからも「歌うこと」を心から楽しんでください。またいつか、みなさんのさらに磨かれた素敵な歌声に出会えることを、審査員一同楽しみにしています。

審査員：森寿美